

指導事例

3-8

「うながす」

中学生になって本を読まなくなった子どもと、読書させたい親のエピソードを通じて、子どもに行動をうながすための関わり方について考えます。

エピソード

• 最近、中学生の さくらが、スマホばかり使っていて心配。
• 少しは本も読んでほしい。
• さくらが小さい時は、絵本好きだったのに、なぜ今は読まなくなってしまったんだろう。
• さくらに言っても聞いてくれない。
• どうしたらいいんだろう。

美樹

心配

さくら (中学生)

成長

読み聞かせ等

さくら (小さかった時)

• スマホが楽しい。友達からの連絡にも必要。
• 本は面白くない。お母さんも本を読んでいない。

• 絵本は楽しい。
• 読んでもらってうれしい。

活動の流れ (70分)

時間	活動内容
10分	◆ 導入 (P2) <ul style="list-style-type: none">▶ あいさつ・自己紹介▶ 参加型学習のルール確認▶ アイスブレイキング・グループ分け▶ 教材の読み合わせ
50分	◆ グループワーク (P3~5) <ol style="list-style-type: none">01 エピソードを読んでどのように感じましたか。02 子どもの頃、どんなことをして過ごしていましたか。03 本を読むきっかけには、どんなことがありますか。
10分	◆ ふりかえり (P6) <p>今日の話し合いを振り返りましょう。</p>

導入



あいさつ 自己紹介

進行役の自己紹介をする

「みなさん、こんにちは」
「これから、『子育て』について、みんなで話しましょう」
「わたしは、……」

ルール 確認

参加体験型学習に必要な4つのルールについて説明する

「これからの時間の中で、守ってほしいルールが4つあります」

- ①「参加」: 講座に参加するために、自分の考えを話してもらう。話したくないことはパスもできる。
- ②「尊重」: 人が話しているときはしっかり聞く。自分の考えと違っていても話をさえぎらず最後まで聞く。
- ③「守秘」: この場で聞いたことはこの場限り。他でもらさない。ワークが進むと自分の生い立ちや家庭状況を話す人もいる。安心して話してもらうため、この場での話は絶対に外にもらさないことを約束する。
- ④「時間」: 一人あたりの発言時間を守る。参加者全員に話してもらうために、制限時間内に話を納めるようお願いする。

グループ 分け

グループをつくる

「5～6人のグループをつくりましょう」

- ・アイスブレイキングをしながら、グループ分けをする。
- ・各グループは、老若男女さまざまな人が入るようにする。
- ・机やイスを動かしてグループごとの“島”をつくる。
- ・一つのグループにできるだけ一人のファシリテーターが入る。

場面設定等 を読む

登場人物の説明、場面設定を読みあげる

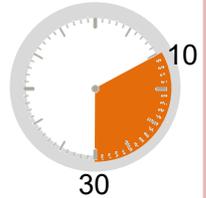
「それでは今日の資料を配ります。はじめにエピソードを読んでみましょう。」

「グループに分かれ、役割分担してこのエピソードを読みあげてみましょう。」

- ・まず、一人ひとりで黙読をしてから読み合わせるのもよい。
- ・朗読はグループごとでもよいし、進行役が全体の場で読み合わせでも構わない。

01

エピソードを読んでどのように感じましたか？



リーダー

エピソードを読んでどのように感じられましたか？似たような経験をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんね。「私はこう思ったわ」というように、感想を一人ずつ順番に出し合ってください。

予想される意見

**(中学生の保護者から)気持ちがよくわかる、私も同じ**

「私の家でも、いつもこんな感じ。こんなとき、どうしようって思うよね。」

「私だったら、もっと大きな声で怒ったり、無理やりスマホを取り上げたりするしかない。」

「本を読むように言っても、言う事を聞かないよね。」

(中学生の保護者から)読書させるのをあきらめている

「本を読むのは大事かもしれないけれど、全然読まないし、読ませるのも難しいよね。」

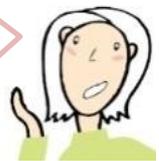
「中学生になったら、部活もあって、勉強も忙しいから、本を読んでいる時間がないよね。」

(小さな子の保護者から)子どもが小さい時の読書について

「小さい時は、本を読んだほうがいいのかしら。でも、仕事が忙しくて読んであげられてないわ。」

「いつも過ごす部屋に本を置いておくと、子どもが自分で読んでいる時があるよ。」

「絵本よりも、テレビアニメに興味があるみたい。なかなか読んでいないわ。」

**スマホばかり使っているのを、やめさせたい**

「友だちとの連絡があるとか言って、スマホを使っている時間が長いよね。」

「どうやったら、やめさせられるのかなあ。」

「スマホの使い方のルールをつくって時間を決めたら、〇時以降使っていないよ。」

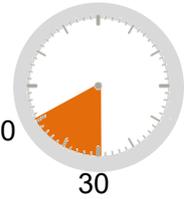


話し合いのポイント！

- ① 感想がスマホの話題ばかりになるなど、内容が広がらない場合は、上記（予想される意見）や7ページを参考に「読書をうながすとどうですか。」と話題を切り替えたり、別の意見を紹介したりして、様々な感想が出るように工夫をしてみましょう。
- ② 意見を出し合う中で、読書やスマホ等に対する参加者の思いや、子どもに何かを「うながす」際のかかわり方などについて、知ることができます。

02

子どもの頃、どんなことをして過ごして
いましたか？（していた遊び、読んだ本など） 40



リーダー

子どもの頃、どんなことをして過ごしていましたか。
まずは、何をして遊んでいたか思い出してみましょう。
次に、読んでいた本、印象に残っている本を思い出してみましょ
う。（本が難しければ、マンガでもいいですよ。）

 予想される意見

外遊び

「ドッジボールをしていたなあ。」
「公園で野球とか三角ベース、キックベース
をしていた。」
「ゴムとびとか、縄とびをしたな。」「かくれ
んぼとか、鬼ごっこ」「一輪車」「竹馬」「ベ
ーゴマ」「バトミントン」



家での遊び

「テレビゲームが多かった。」
「ぬり絵とか、トランプとか、将棋」
「ボードゲームもおもしろかった
な。」

本

「推理小説を読み始めたら、やめられなかっ
たな。」
「歴史人物の本を読んでた。学校の図書館
で借りていた。」
「〇〇〇が印象に残っている。教科書にも載
っていたね。」
「△△△は面白かった。」



遊び・本以外

「本は読んでないけれど、マンガはよく読ん
だ。」
「子ども用の雑誌なら、よく読んでいた。」
「本もマンガも読まずに、テレビばかり見て
いた気がする。バラエティ番組が特に好きだ
った。」



話し合いのポイント

- ① 参加者自身が子どもの頃のことを思い出すことで、今の子どもたちの思いをイメージしやすくなります。
- ② まず、していた遊びを思い出すと、子どもの頃をイメージしやすいでしょう。その後で「読んでいた本」を考えると、思い出しやすくなるでしょう。
- ③ 参加者の中には「本は読んでいなかった」という人もいるでしょう。そのような時は、「マンガや雑誌でもいいですよ」など、思い出せるものに広げて話をしてもらいましょう。

本を読むきっかけには、どんなことがありますか？



リーダー

次に、子どもたちが本を読むことについて考えます。読書するほうがいいと思っても、なかなか読書をしないですね。それでも読んでほしいと思うときは、どうすればいいでしょうね。本を読むきっかけを考えましょう。やったことがある方法や思いついた方法など、紹介していただけますか。

 予想される意見
**(中学生の保護者から)本を読むきっかけ**

「興味のある本があれば、読むのかなあ。でも、何に興味があるのかなあ。」
 「興味を持つように、いくつか本を紹介すればいいかな。」
 「親が本を読んでいたら、子どもも影響を受けて読むんじゃないだろうか。」
 「読書感想文の宿題で読んでいたことがある。強制的にでも読ませることで、読書の大事さを実感させればいいんじゃないかな。」

(中学生の保護者から)時間が必要

「中学生は、部活や勉強で忙しく、本を読む時間が無い子もいるのでは？」
 「残った時間を、好きな事に使っているから、読書が少ないのかな。」

(小さな子の保護者から)本を読むきっかけ

「読み聞かせをするのがいいのかと思って、時間がある時にやっています。」
 「読み聞かせをしたら、話を聞いているけれど、自分で絵本を見たりすることはあまりないから、どうすればいいか知りたい。」
 「リビングに、表紙が見えるようにおいていると、自分で本を見ている時がある。」
 「気に入った絵本を何回も読んでいますよ。」

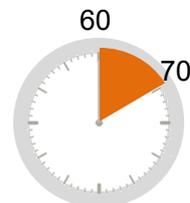
**スマホの制限が必要では？**

「忙しいと言っても、スマホを使う時間はある。使いすぎないことが大事な。」
 「スマホのルールが必要かな。」



話し合いのポイント

- ① 成功例だけでなく、うまくいかなかったことも含めて、経験を出し合ったり、やったことが無い、思いついたことでも、紹介し合ったりしましょう。
- ② 話のきっかけづくりとして、先に「読書の良さ」を出し合う方法があります。
- ③ 意見が出にくい時は、参考資料を見るのもいいでしょう。
- ④ 出てきた意見の中からできそうなことを考えるのもいいでしょう。



ふりかえり

今日の話し合いをふりかえりましょう。



リーダー

ありがとうございました。
最後にみなさんの想いを共有しましょう。
一人ずつ順番に、今日の感想をお願いします。



予想される意見

「ついつい『読書しなさい』と言ってしまふ。でも、言っても聞かないのよね。」

「中学生になると、『言う事を聞かせる』ことが難しいって思っていた。子どもの思いを聴いて、うながすという視点も考えてみよう。」

「みんな同じような悩みを抱いているとわかっただけでも、安心できた。」

「やっぱり、読書させるのは難しい。でも、まずはスマホの使い方を何とかさせたい。」

「子どもと話しながら、スマホや勉強や読書など日々の時間の使い方を考えてみよう。」

「自然に読書するような雰囲気づくりが大事なのかな。」

「難しいことはできないけれど、できることからやってみよう。」



ふりかえりのポイント！

- ① ふりかえりでは、ここまでの話し合いをふまえ、エピソードからはなれ自分の身近な事象として捉えて考えていきます。自分ならどう考え、何をするか、多様な考えがあることに気付いたり、自分の子育てを振り返ったりすることになります。
- ② テーマが「うながす」であると確認することで、テーマに沿った振り返りをしやすくなります。
- ③ 出された感想はどれも尊重し、場の大勢とは異なる少数意見が出されても否定しないようにし、特定の感想に集約させるなど、無理にまとめる必要はありません。
- ④ 参加者が日頃の想いや考えを話すことができたか、また、講座をきっかけに気持ちがりフレッシュでき、子育てに前向きに取り組む気持ちになれたかを問いかけ、確認しましょう。

● ふりかえりの言葉の例



たくさん意見が出てきましたね。子育てをしていると、子どもが言うことを聞かないような経験を、多くの方がしているようですね。皆さん悩みながら、毎日を過ごしていますね。共感される場面がたくさんありましたね。その中で出てきた、ほかの方がしていることがヒントになるかもしれませんね。

こんな時どうする！？

次のような意見になったとき、ファシリテーターとして、どのように話し合いをつないでいったらいいのかな？

【ケース1】

グループワーク1で、エピソードを読んで感じたことをたずねると、スマホに関する話で盛り上がり、読書に関する話に広がらない。読書をうながす展開にしたいのに、ねらい通りにワークを進行できない。

親学習教材「うながす」は、読書をうながそうとする親と、それに対する中学生とのエピソードを描き、「読書をうながす」ことを主なテーマとしていますが、スマホにまつわるエピソードも含んでいるため、スマホの使い方に参加者の話題が集中することも予想されます。そこで、「読書をうながす」話題に進めるために、次のような工夫が考えられます。

①エピソードを読む前に「読書をうながす」テーマを進めることを確認しておく。



今日のテーマは「うながす」です。読書に関してのエピソードが書かれていますので、最後には読書をうながすことについて、考えたいと思います。

②スマホのことばかりに話題が集中するときは、読書の話題に転換する言葉かけをする。

今日は、読書をうながすことがテーマですので、エピソードの読書について感じた意見や、それぞれのご家庭で読書をうながした時の様子なども紹介していただけますか。

【ケース2】

読書をするには、そのための時間が必要。子どもたちは勉強などもしなくてはならないし、スマホを使うことに時間を使っていることもあるから、まず、1日の時間を有効に使うようにうながすことについて話したい。

この教材は、読書に関するエピソードを描いていますが、グループワークの2と3を応用することで、様々なことを「うながす」ことについて、話し合うことができます。

(例) スマホを使いすぎないように「うながす」とき



[グループワーク2] 子どものころ、どんなことをして過ごしていましたか。(していた遊び、見ていた番組など)

[グループワーク3] スマホやゲーム、テレビなど、夢中になっているものをやりすぎないようにするきっかけには、どんなことがありますか。

読書に関するQ&A

Q 子どもが3歳になりますが読み聞かせをしてきませんでした、今からでもよいのでしょうか。

A

何歳からでも安心してはじめてください

読み聞かせを続けているうちに、子どもが成長し、興味・関心が広がったり、情緒が豊かになったりしていく様子を実感できるようになっていきます。

Q

同じ絵本ばかりを読みたがりますが、このままでよいのでしょうか。

A

心配はいりません

お気に入りの絵本ができることは素晴らしいことです。子どもが満足のいくまで何度でも楽しむと、興味・関心はうつっていきます。気になるようでしたら、好きなページや場面から、少しずつジャンルを広げてみてはいかがでしょうか。

(出典：絵本で子育てを楽しく 文部科学省)

Q

一緒に読むならどんな本がいいのでしょうか？

A

大阪府では、本を読むことが苦手な子どもと一緒に読んで楽しめる本を紹介するブックリストを作成しています。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiku/libreso/booklist.html>



子どもが好きなものや遊びなど、身近なことが取り上げられている本はいいがですか。一度に長い物語を読もうとしないで、遊びの要素がある本や、子どもが関心を持っているジャンルの本を読んでみるのもいいかもしれません。

Q

読書に関する参考資料はありませんか。

A

大阪府では、次のブックレットを作成しています。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiku/libreso/index.html>

- ・「読書は子どもにとってどんな影響がある?」、「どんな本を読めばいい?」を紹介した、保護者向けのブックレット
- ・読書活動から遠ざかっている子どもが、自発的に本を読みたいと思うためのステップとなるような読書活動支援の取組み例を紹介した支援者向けのブックレット